

## 人生の「リスク」に対するセーフティネット！ —幸福をシェアする「社会保障制度」について考えよう—

(総授業時数：5時間)

### 実施学年、教科等

第1～3学年、公民科（「現代社会」、「政治・経済」）

### 単元の目標

- (1) 「社会保障制度」の現状と課題を、少子高齢化の進行や、財政との関連、保険料の負担などとの関係について考察できるようにする。
- (2) 医療、介護、年金などの保険制度においてみられる諸課題を理解し、「社会保障制度」の現状と課題を把握することができるようにする。
- (3) 疾病や障害などの原因により発生する経済的な不安（リスク）に対するセーフティネットとして、その不安（リスク）を社会全体で分かち合う「社会保障制度」の意義や役割を理解することができるようにする。

### 学習の評価

- (1) 今日の社会保障制度の現状と課題などを理解・考察している。（ワークシート）
- (2) 各種統計資料を積極的に活用して、各事象を客観的に把握・理解し、考察している。（授業での発言）
- (3) グループやクラスディスカッションにおいて、学習によって得た知識を基に自らの意見や感想を発信している。（授業での発言）
- (4) 疾病や出産、障害、加齢など様々な要因により発生する経済的な不安を取り除いて生活の安定を図り、人間として生活が保障される「社会保障制度」の意義や役割について基礎知識を理解している。（ワークシート）

### 展開の特色

- (1) この「社会保障」単元は、制度等については複雑で把握・理解は難しいといえる。学習活動においては、制度論の授業展開に終始することなく、意義や機能が把握できる学習活動が望まれる。
- (2) 「年金」や「社会保障制度」などの役割を自分たちの暮らしの中で考えるとともに、不測の事態に備える方法としての保険と貯蓄の機能の違いや社会保険と民間保険との補完関係を理解する。

### その他

- (1) 「社会保障」の授業は、とかく「制度論」に陥りやすいので、生徒にとって身近な学習素材や話題を織り込む工夫をした授業内容を展開するように留意したい。
- (2) 特に「年金」については、「将来世代」の生徒にとっても極めて重要なことなので、「国のあり方（姿）」や財政、さらに「雇用」などにも関連した知識の習得と考察が必要であることにも留意したい。
- (3) 「社会保障」に関するマスコミの報道（記事）などを事前に生徒に収集させ授業で活用することが望ましい。
- (4) 「社会保障」をより身近に把握・考察させるため、導入としてグループ（班）やクラスディスカッションで活用できる「社会保障」に関する簡単なアンケート（意識調査）を作成・実施する。
- (5) 同じ公民科の科目である「政治・経済」をはじめ、家庭科や「総合的な学習の時間」や「LHR」などの授業においても、その工夫によりこの指導計画例の趣旨を反映した授業展開が可能であろう。

### 「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目

\*記号については、P.32～45を参照。

Aーウ・エ、Bーエ、Dーア

### 学習内容のキーワード

社会保障、民間保険・社会保険、年金、少子高齢化、賦課方式・積立方式、マクロ経済スライド

## ● 指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他(資料等)	
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入として・・・「社会保障」に関して生徒のイメージを把握するとともに、中学「公民」の知識を確認し、また問題意識を把握する。</li> <li>「社会保障」の歴史や位置付け、さらに社会保障の基本的条文である、日本国憲法第25条の規定などについても理解・把握する。</li> </ul>	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会保障の歴史 (ベバリッジ報告等)、日本国憲法第25条と生存権 (プログラム規定)、社会保障の4つの体系 (公的扶助・社会保険・社会福祉・公衆衛生)、そして国民皆保険・国民皆年金など。</li> </ul> <p>(学習活動) 教材・資料等 1・2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「社会保障アンケート」、また「社会保障のあり方」の課題 (カード)、DVD等の視聴をする。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 社会保障制度を理解し、自分たちの暮らしの中での役割を考えるための端緒となる導入授業とし、中学校で学習した知識を整理し、また新たな「社会保障」と、その主要な分野である「年金」にかかわる金融知識を学ぶ準備とする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ アンケート (意識調査) を授業の導入として活用する。</li> <li>★ 「低負担低福祉」はアメリカ、「高負担高福祉」は北欧、では日本は？と発問、日本の社会保障のイメージを考察させ、生徒の理想とする国家像を話し合う。回答例は「○負担○福祉」のように、生徒にその理由も質問する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「社会保障アンケート」</li> <li>・ 「社会保障のあり方」カード</li> <li>・ DVD『社会保障って、なに?』厚生労働省 (平成25年10月)</li> <li>・ 『大学生のための人生とお金の知恵』</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の「社会保障制度」を概観し理解・把握する。</li> <li>日本の社会保障給付費は115兆円 (2014年予算ベース) である。</li> <li>公的扶助 (生活保護) の役割と機能を理解する。</li> <li>「社会保険」について把握する (民間保険は社会保険を補完する)。</li> <li>(ア) 「保険」とは何か。</li> <li>(イ) 「医療保険」 (現在リスク) について理解・把握する。</li> </ul>	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「社会保障」の4つの類型、①社会保険、②公的扶助、③社会福祉、④公衆衛生について。</li> <li>● 公的扶助 (生活保護・「最後のセーフティネット」)</li> <li>● 「保険」とは何か、そして「貯蓄」との違いは何か。</li> <li>● 「医療保険」制度、そして「高額療養費制度」</li> </ul> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会保障制度を理解・把握し、「保険」と「貯蓄」の違いを簡単な概念図等により理解する。</li> <li>● 「医療保険」について、簡単なクイズを実施し、身近な事例からその役割・仕組みを把握する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「社会保険」の中でも、「医療保険」については高校生にも最も身近なものである。</li> <li>教師が健康保険証の見本を提示し、医療を受けることが、どのような「お金」のシステム・仕組みの中で行われているかを理解し、また「社会保険 (医療保険)」の恩恵 (不測の事態に備える方法としての保険の恩恵) を受けていることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 分類には他に、「子育て」・「医療」・「介護」・「年金」もある (厚生労働省)。</li> <li>★ 生活保護 (公助) は無差別平等に事後的に救済 (救済機能)、今日では高齢化や景気の低迷により受給者の増加と、保護費の引き下げが課題に。</li> <li>★ 社会保険 (共助) は事前に保険料を納付してリスクが発生した時に給付する。特に「医療保険」は生徒も身近なので、クイズ等を活用してその意義や役割、仕組みを理解・把握させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『社会保障の教育推進に関する検討会報告書—資料編—』厚生労働省 (平成26年7月)</li> <li>・ 『ビギナーズのためのファイナンス入門』</li> <li>・ 『くらしの豆知識 2016』国民生活センター (平成27年8月)</li> <li>・ 『大学生のための人生とお金の知恵』</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
3 4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>「社会保険」の中の主要な制度である「年金保険」 (将来リスク) について理解・把握し、課題・問題についても考察する。</li> <li>「年金保険」について、「将来世代」である高校生に望まれる「スタンス」や「行動」は何かを話し合い、また考察する。</li> </ul>	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「年金保険」 (防貧) 制度の仕組みについて。</li> <li>● 少子高齢化の進行と、「年金制度」の課題・問題</li> <li>● 「賦課方式」と「積立方式」、「世代間不公平」</li> <li>● 年金財政の「破綻」、そして「未納問題」について把握する。</li> </ul> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 年金制度に関して相対立する考え方などについて話し合い、また自らの意見や感想を積極的に発信する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 人生において「年金」の意義は大きく、特に老後の生活になくはならないことを把握する。</li> <li>◆ また「年金制度」が抱える多くの課題・問題の解決に向けて、自ら合理的、主体的にかかわり考える態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 「年金保険」は防貧・共助の機能があること。</li> <li>★ 「年金保険」の賦課方式と積立方式について「世代間不公平」と関連させて理解・考察させ、また論議させたい。</li> <li>★ 年金の「未納問題」など、年金の今日的な課題・問題 (例えば、働いていても生活保護費よりも少ない年金収入の人が多いことなど) も積極的に考察させたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『ビギナーズのためのファイナンス入門』</li> <li>・ 『平成26年版 厚生労働白書』厚生労働省 (平成26年8月)</li> <li>・ 『くらしの豆知識 2016』国民生活センター (平成27年8月)</li> <li>・ 『大学生のための人生とお金の知恵』</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会保障制度に関連して、「福祉社会」の実現について理解を深め、また様々な課題・問題を考察する。</li> <li>特に「貧困」の問題は、雇用問題などと密接に関連している。定年制の廃止、定年年齢の引き上げなどもその解決策となることに気付かせたい。</li> </ul>	<p>(学習内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、高齢社会と介護保険制度、さらに若者、単身、高齢者の貧困 (「老後破産」・「貧困老後」) の問題、さらに「非正規雇用」の課題など。</li> </ul> <p>(学習活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 「貧困」の問題など具体的な課題に対して、積極的に討論等を行い、それぞれの事象 (社会保障と労働・雇用) が密接に関連することを把握する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 社会保障 (年金等) の課題・問題は、労働・雇用などその影響は多岐にわたることに気付かせる。</li> <li>◆ 課題の解決に向けては、自ら合理的、主体的にかかわり考える態度を身に付け、さらに政府が行うべき施策について自ら考える態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 社会保障にかかわる課題・問題を、社会状況や多くの具体的生活場面の中で考えさせたい。</li> <li>★ 将来の「老後」の経済生活を考え、「現役世代」の時に勤労により収入を得ることが将来にわたって経済的自立の基盤となることを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『あなた自身の社会—スウェーデンの中学教科書—』アーネ・リンドクヴィスト他著、川上邦夫訳 新評社 (平成9年6月)</li> <li>・ 『社会保障制度改革国民会議報告書』 (平成25年8月)</li> <li>・ 『大学生のための人生とお金の知恵』</li> <li>・ ワークシート</li> </ul>

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育のねらいと方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育のねらいと方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

## ●本時の展開

**本時の目標**  
 ア：社会保険の主要な制度である「年金保険」とその仕組みについて理解する。  
 イ：「年金」の現状と課題・問題を理解・把握し、自ら意見や感想を積極的に発表する。

	学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	その他
<b>導入</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前授業での「保険」・「社会保険」についてのポイント（「保険」と「貯蓄」とは違うことなど）を確認する。 教材・資料等3</li> <li>また、「年金保険」について、生徒が抱えているイメージや意見・感想を把握し、グループやクラスで共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前授業の「保険」・「社会保険」についてのポイントを復習・確認する。特に、「公的年金」が貯蓄と違う点などを再度理解し、また把握する。</li> <li>●各種のマスコミ報道を調査させ、「年金」に関する話題（あるいは関係する「事件」など）を発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「年金制度」をはじめ経済社会が抱える問題について幅広く関心を持ち、情報収集の技能を身に付ける。</li> <li>◆また、年金制度の課題解決に向けて合理的・主体的に考える態度を身に付け、年金制度の改善策に積極的にアプローチする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「年金保険」制度に関して、生徒のイメージや感想・意見を聞き、さらに、中学校「公民」や前時の授業（社会保険）の「基礎知識」を確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の感想・質問例・・・ 「払った分のお金が、年金として戻ってこない?」、「少子高齢化で年金はヤバイ!年金は破綻する!」、「高齢者はもらい得、自分たちは損、これは不公平だ!」など。</li> </ul>
<b>展開①</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化の進行について。</li> <li>少子高齢化の進行と、「公的年金」の課題・問題について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「人口ピラミッド」の推移に関する統計資料を収集し、より多くの客観的な情報により学習ができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆現代の経済社会の課題（人口の減少）について多面的・多角的に情報を収集し、整理することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★今日の日本の人口減少と人口構成を客観的な統計等を利用し、生徒に理解・把握させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人口の減少について、その原因や影響などを考察・発表させる とよい。</li> <li>ワークシート</li> </ul>
<b>展開②</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)「公的年金制度」の意義や仕組みについて。教材・資料等4</li> <li>(イ)「学生納付特例制度」や「若年者納付猶予制度」では、老齢基礎年金の受給資格期間への算入は可、但し年金額へ反映されないことや、障害・遺族の両基礎年金の受給資格期間への算入は認められていること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「公的年金制度」の意義や仕組みを学習する。その際、「年金」があくまでも「社会保険」であることも再度ここで確認する。</li> <li>●学習の過程で「年金財政」が、「少子高齢化」の進行などにより様々な課題・問題を抱えていることに気付き、その解決策を探るための情報を積極的に収集し、自らの意見をまとめ、また発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生活設計に必要な社会保障制度（特に年金）の役割を把握し基礎知識を身に付け、さらにそれを活用して将来の自分の暮らし（老後など）を考える。</li> <li>◆また、「年金」を理解し考察する場合、社会保険と民間保険との補完関係も理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「年金保険」（老齢年金）についてはその意義や基本的な仕組みを図版等で理解・把握させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老齢年金の支給は、原則25年以上の加入、そして65歳から支給されること、さらに学生・若年者の納付猶予制度等についても高校生の段階で十分に把握させる。</li> </ul>
<b>展開③</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(ア)「税方式」、「保険方式」について。</li> <li>(イ)年金保険（老齢年金）に関する「賦課方式」（「世代間扶養」の考えによる）と「積立方式」の2つの方式について。 ○「少子高齢化」の進行による「超高齢社会」における、現行の「賦課方式」の問題点であると指摘されている「世代間不公平」について。 一方、またその「改善策」や「抜本的改革案」とはどのようなものか。</li> <li>(ウ)年金財政は「破綻」するのか。</li> <li>(エ)年金の「未納問題」について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「年金制度」の仕組みに関して、「税方式」・「保険方式」、そして「賦課方式」と「積立方式」について理解する。</li> <li>●現行の「賦課方式」の最大の問題であると指摘されている「世代間不公平」について把握し、その改善点、あるいは「抜本的改革案」について考察し、現実的な問題解決を考察する。</li> <li>●また上記の各課題・問題点について、グループ（班）やクラスディスカッションを通して、意見に相違があることも理解し、自らの意見を積極的に発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆公的年金保険（老齢年金）の基本的な仕組みを理解したうえで、自分の暮らしの中での「年金」の役割を考え、さらにまた現行の「公的年金制度」が抱えている課題や問題点を考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★公的年金保険についての課題・問題についての授業では、あまり専門的で詳細な内容の授業展開にならないようにしたい。グループ（班）・クラスディスカッションによる考察に重点を置きたい。</li> <li>★なお、「世代間不公平」の他、「世帯間不公平」も指摘されている。</li> <li>★また「マクロ」の視点から、年金制度財政は経済成長とも関連することに気付かせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年金保険制度の問題点・課題（賦課方式か、積立方式かなど）については、2つの方式のメリット・デメリットを挙げ考察し、話し合いを展開するが、単に「世代間公平」のみに偏った議論と結論形成ではなく、他の様々な事由も考えて結論を導きたい。</li> <li>・「マクロ経済スライド」についても生徒に紹介するか。</li> <li>・「賦課方式」は「修正積立方式」とも呼ばれている。</li> <li>・年金財政が破綻するといわれる問題については、将来、未納・未加入者への年金給付は発生しないことを紹介する。</li> </ul>
<b>まとめ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「年金保険」（老齢年金）の仕組みについて確認しまとめる。</li> <li>年金の方式（税方式か保険方式かや、賦課方式か積立方式か）について。</li> <li>高校生（将来世代）として、どのように考え、そして行動するか考えよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「年金保険」（老齢年金）の仕組みについて確認するとともに、学生・若年者の「納付猶予制度」等についても再度確認する。</li> <li>●さらにディスカッションに積極的に参加して自己の考え方を形成し、また発信する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「将来世代」である高校生が、「年金」の課題・問題の解決に向けて、常に社会に目を向け真摯にまた合理的・主体的に考える態度を身に付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★「年金」そして「社会保障」の課題・問題は、労働（雇用）問題や「貧困」問題と密接に関連していることに気付かせることが重要である。そして次回の授業につなげる工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は、「税金も年金保険料も高いのはイヤ!でもみんなのために有意義に使われるのなら協力したい。」という。建設的な意見が多くの生徒から出るようにしたい。</li> <li>ワークシート</li> </ul>

1 金融教育のねらいと基本的性格  
 2 金融教育の目標と方法  
 3 金融教育を支援する関係機関等の活動  
 4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して  
 5 小学校における金融教育  
 6 中学校における金融教育  
 7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格  
 2 金融教育の目標と方法  
 3 金融教育を支援する関係機関等の活動  
 4 金融教育の指導計画の作成と実施に際して  
 5 小学校における金融教育  
 6 中学校における金融教育  
 7 高等学校における金融教育

●教材・資料等 (授業で用いる教材や資料、ワークシート等)

1 社会保障アンケート

『現代社会・総合学習』[課題アンケート] 『ファイナンスクラブ・社会保障PT』  
『社会保障』について 平成26年度 (6月実施)

(1) 中学の「公民」等の「社会保障」の授業において・・・

- ①あなたは、中学の時に「社会保障」に興味・関心がありましたか。  
ア. とてもあった ①. まあまああった ウ. どちらともいえない  
エ. あまりなかった オ. ほとんどなかった カ. まったくなかった
- ②中学校の「社会保障」の授業の内容について、よく理解できましたか。  
②. よく理解できた イ. まあまあ理解できた ウ. どちらともいえない  
エ. あまりよく理解できなかった オ. 理解できなかった
- ③上記の②で、エ. とオ. に回答した人に・・・その理由を簡単に述べて下さい。  
→

- ④中学の「公民」の「社会保障」の授業の内容で、分からなかったことや疑問に思ったことなどを記入して下さい (2つまで)。  
・政府は社会保障に関していくらくらいのお金を費やしているのか。

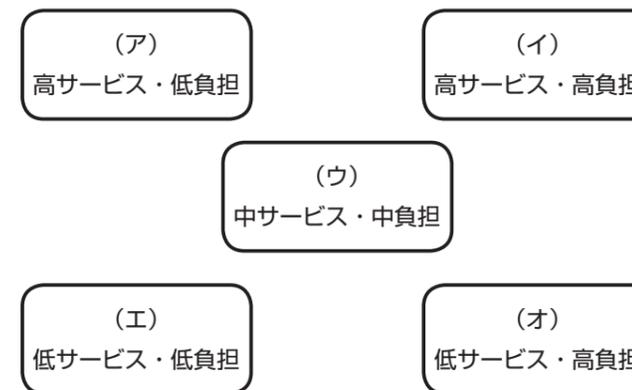
(2) 「社会保障」に関して・・・今、「高校1年生」のあなたへの質問です!

- ①あなたは、現在、「社会保障」に興味・関心がありますか。  
ア. とてもある ①. まあまあある ウ. どちらともいえない エ. あまりない  
オ. ほとんどない カ. まったくない
- ②あなたは「社会保障」に対してどのような「イメージ」を持っていますか。自由に回答して下さい。  
生活において様々な困難(と身体・経済的などの)がある人への政府の援助。かたがたお金を費やしている。
- ③あなたにとって、「老後」とは何歳ぐらいからだと思いますか。  
ア. 30歳代～ イ. 40歳代～ ウ. 50歳代～ エ. 60歳代～ ③. 70歳代～  
カ. 80歳代～ キ. 90歳代～ ク. 100歳代～ ケ. その他( )
- ④あなたは自分の「老後」の生活について (特に経済的な生活)、考えることがありますか。  
ア. よく考える イ. 時々考える ウ. 考える時もある ④. 全く考えない
- ⑤「社会保障」は「老後」のイメージが強いが、子育てや病気・障害など若い時期 (世代) にも役立っていることをあなたは知っていますか (把握していますか?)。  
ア. 知っている (把握している) ⑤. 何となく知っている (何となく把握している)  
ウ. 知らない
- ⑥「社会保障」に関して、あなたの家庭で話題になることがありますか?  
ア. よくある ⑥. 時々ある ウ. ほとんどない エ. まったくない
- ⑦「社会保障」に関して、「友だち」同士で話題になることがありますか?  
ア. よくある イ. 時々ある ウ. ほとんどない ⑦. まったくない
- ⑧あなたは、「税と社会保障の一体改革」について知っていますか。  
ア. 内容を知っている イ. 言葉だけは知っている ⑧. 何も知らない
- ⑨上記の⑧でア. とイ. を回答した人へ、あなたは「税と社会保障の一体改革」について、興味・関心がありますか?  
ア. とてもある イ. まあまあある ウ. どちらともいえない エ. あまりない  
オ. (ほとんど) ない
- ⑩あなたは、高校生が「社会保障」について、理解し考えることは重要だと思いますか。  
ア. とても思う ⑩. 少し思う ウ. どちらともいえない  
エ. あまり思わない オ. (ほとんど) 思わない
- ⑪あなたは「社会保障」について、今後、興味・関心をもって学習したいと思いますか。  
ア. とても思う ⑪. 少し思う ウ. どちらともいえない  
エ. あまり思わない オ. (ほとんど) 思わない

1年 組 男 ④

2 「社会保障のあり方」カード

あなたは、どのような「社会保障制度」が望ましいと思いますか。以下の (ア) ~ (オ) の5つのカードの中から一つ選び、その理由を簡単に述べて下さい。



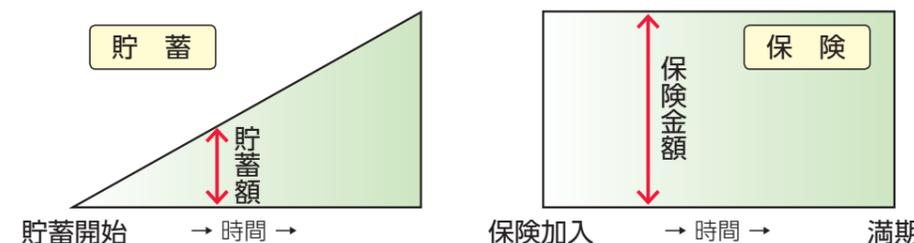
選んだカードは、  ( )	その理由は、 _____ _____ _____
---------------------	-----------------------------------

※なお、「社会保障制度」には様々な種類がある。その国の国民がどのような「国家」・「社会」を望んでいるかに注目すると、①家族依存型 [F・ファミリー依存型]、②政府依存型 [G・ガバメント依存型]、③市場依存型 [M・マーケット依存型] がある。F・G・Mは、それぞれ家庭、政府、市場が提供する「福祉サービス」のことである。

※「社会保障制度」の類型については、厚生労働省の分類に準拠。

3 「保険」と「貯蓄」の違いの解説図

「貯蓄は三角、保険は四角」



「貯蓄」で大きなリスクをカバーするのは大変…。上図のように「貯蓄」は少しずつしか増えないのに対して (貯蓄は三角形)、保険は損失 (リスク) に備えて保険料を払っていけば、損失を賄うお金がすぐに確保できる (保険は四角形) からです。

金融広報中央委員会「大学生のための人生とお金の知恵」P.41 ~ 42 をもとに作成

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指導計画の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

4 新聞記事「年金って何？」(読売新聞 平成 27 年 6 月 2 日)

著作権の関係で表示できません。  
冊子をご覧ください。